

【福島応援人形劇公演 Part4】

- 1) 日程 平成30年2月27日（火）～3月6日（火）
- 2) 場所 福島市2会場、二本松市1会場、郡山市1会場、伊達郡1会場の計5ヶ所で公演を実施。
- 3) 参加劇団 さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座（12名）、八王子車人形西川古柳座（1名）、竹本信乃太夫、鶴澤弥栄（義太夫2名）、照明スタッフ（1名）
- 4) 公演記録

月/日（曜）	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
2/28（水）	16：30	二本松市地域文化伝承館 二本松市鈴石町 361-1	「二人三番叟」（あしり座） 「東海道中膝栗毛 卯塔場の段」（あしり座） 「釣女」（あしり座） 「地唄舞 ゆき」（西川古柳座）	96名
3/1（木）	14：00	県営北沢又団地 大和田 集会所（浪江町復興住宅） 福島市北沢又大和田前 1-7	「二人三番叟」（あしり座） 「東海道中膝栗毛 卯塔場の段」（あしり座） 「釣女」（あしり座） 「地唄舞 ゆき」（西川古柳座）	48名
3/2（金）	10：30	川俣町立川俣小学校 伊達郡川俣町字宮前 36 番地	「二人三番叟」（あしり座） 「東海道中膝栗毛 卯塔場の段」 （西川古柳座） 「祝い唄」（あしり座）	194名
3/3（土）	10：30	福島市子どもの夢を育む 施設こむこむ 福島市早稲町1番1号	《第一部：ふれアート in こむこむ発表会》 「二人三番叟」「型」「立ち回り」「釣女」 《第二部：西川古柳座&あしり座公演》 「東海道中膝栗毛 卯塔場の段」 （西川古柳座） 「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」（あしり座）	100名
3/4（日）	13：30	日和田公民館 郡山市日和田町字小堰 23-4	《一部：高倉人形復活プロジェクト発表会》 「二人三番叟」「立ち回り」「さくらさくら」 「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」 《二部：西川古柳座&あしり座公演》 「二人三番叟」（あしり座） 「地唄舞 ゆき」（西川古柳座） 「祝い唄」（あしり座）	170名

5) 写真で見る公演及び調査記録

①二本松市地域伝承館



➤二本松市伝承館での公演は4年連続となったが、事前配布の整理券がすぐになくなるなど地域の方たちが公演を楽しみにしてくれている様子が見える。地元のスタッフの方たちがとても協力的で一緒に楽しみながら事業を盛り上げてくれることが要因の一つだと考える。

➤今回の支援活動では札幌の大学生を5名連れていったが、来場者の方たちも若者の活躍を微笑ましく見守ってくれ、「ぜひ来年も来てほしい」と嬉しいお声掛けをいただくことができた。

②県営北沢又団地 大和田集会所（浪江町復興住宅）



➤浪江町からの避難者の方たちが暮らす復興住宅で上演を行った。この団地では、集会所の場所が避難者の方と地域住民の方とが交流を図りやすいよう配慮された配置となっているが、実際にはイベントなど頻繁に開催できるわけではないのが現状らしく、今回の伝統人形芝居公演を歓迎していただくことができた。

➤津波の被害が大きく、さらに放射能被害により避難を余儀なくされた方たちが大勢いる浪江町。受入れにご協力をいただいた自治会長さんに当時の被害の状況を教えていただいた。今回は札幌から大学生を連れていったが、地元の方のお話を直接聞くことができるのは非常に貴重な機会である。これからの時代を担う若い世代が震災について考えるきっかけとなったのではないかなと思う。

③川俣町立川俣小学校



➤小学校で全校生徒を対象とした伝統人形芝居公演とワークショップを開催した。低学年の子どもたちがおり、初めて観る人形浄瑠璃にどういった反応をするか先生も気にされていたが、みんな集中して観てくれた。

➤神様が色々なものを釣竿で釣り上げる「祝い唄」という演目では、教頭先生と校長先生にも出演のご協力をいただき、会場を大いに盛り上げてくれた。

④福島市子どもの夢を育む施設こむこむ

《第一部：ふれアートinこむこむ発表会》



- 全 7 回で開催してきたワークショップの発表公演と、八王子車人形、あしり座による伝統人形芝居公演を実施した。子どもたちはとても緊張した様子で、直前まで動きの確認をしあっていた。福島市内の色々な小学校、中学校から集まってきている学年も違う参加者たちであるが、ワークショップを重ねるごとに仲良くなっていき、良いチームワークで発表を迎えることができた。
- こどもたちの元気な発表に会場のお客様も大変楽しんでくれていた。こむこむでのワークショップ開催は今年度で 3 年目となったが、毎年発表会を観に来てくれているお客様からは「今年は演目も楽しかった。毎年レベルアップしている」とのお声をいただいた。

《第二部：八王子車人形西川古柳座&さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座公演》



- 子どもたちの発表に引き続き、東京の西川古柳座と札幌のあしり座が上演。笑いを誘う「東海道中膝栗毛」の他、親と子の情を描いた「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」を上演。来場者からは、笑いあり涙ありで楽しい公演だったと言っていた。
- 東京より太夫、三味線の方をお招きしての生演奏も大変好評であった。札幌の義太夫講習会で勉強中の大学生も語りを披露。観客のみなさまから若い太夫の活躍に大きな拍手が送られた。

⑤日和田公民館

《第一部：高倉人形復活プロジェクト発表会》



- 全 7 回で開催してきたワークショップの発表公演。この地区に伝わりながらも今はなくなってしまった人形浄瑠璃「高倉人形」を復活させたいと地元の方からの声で始まった取り組み。この活動をきっかけに地域を盛り上げていこうという有志が熱心に取り組んできた。
- 会場を埋め尽くす程のたくさんのお客さまにご来場いただき、高倉人形の復活を記念する第一歩を多くの地元方の応援で良いスタートを切ることができた。

《第二部：八王子車人形西川古柳座&さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座公演》



- 高倉人形の復活をお祝いするため、札幌の若者が「二人三番叟」を上演。八王子車人形の家元、西川古柳氏による「地唄舞 ゆき」では珠玉の演技に感嘆の声があがった。プロによる本物も技を身近に観ていただけただことは、ワークショップの参加者にとっても良い機会であったと思う。
- あしり座による「祝い唄」では、高倉人形の復活をお祝いするご当地ネタも盛り込み会場が盛り上がった。第一部、二部ともお祝いムードがいっぱいの良い公演になった。

【人形浄瑠璃体験ワークショップ】

- 1) 日程 平成30年2月27日(火)～3月6日(火)
 2) 場所 長期ワークショップ(全7回):福島市子どもの夢を育む施設こむこむ、日和田公民館
 その他、二本松市地域文化伝承館、川俣町立川俣小学校で短期ワークショップを実施
 3) 参加劇団 八王子車人形西川古柳座(1名)、さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座(12名)、
 竹本信乃太夫、鶴澤弥栄(義太夫2名)

4) 実施記録

①短期体験

月/日(曜)	時間	会場	内容	参加者数
2/28(水)	16:30	二本松市地域文化伝承館 二本松市鈴石町361-1	一般対象/三人遣い体験 ワークショップ ※公演の中で成果発表	6名 (子1、大人5)
3/2(金)	10:30	川俣町立川俣小学校 伊達郡川俣町字宮前36 番地	1～6年生対象/三人遣い 体験ワークショップ&観劇	204名 (子194、大人10)

②長期体験/人形浄瑠璃体験ワークショップ『ふれアート』

月/日(曜)	時間	会場	内容	参加者数
3/2(金)	16:30	福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ	『ふれアート』inふくしま 4回目	10名 (子10)
3/3(土)	9:00	福島市早稲町1番1号	『ふれアート』inふくしま 5回目	10名 (子10)

③長期体験/復活!高倉人形プロジェクト・人形浄瑠璃ワークショップ

月/日(曜)	時間	会場	内容	参加者数
3/3(土)	17:00	日和田公民館 郡山市日和田町字小堰23-4	こども対象 4回目 三人遣いワークショップ	21名 (子21)
	19:00		おとな対象 4回目 三人遣いワークショップ	17名 (子2、大人15)
3/4(日)	9:30	郡山市日和田町字小堰23-4	こども対象 5回目 三人遣いワークショップ	21名 (子21)
			おとな対象 5回目 三人遣いワークショップ	15名 (大人15)

5) 写真で見る公演及び調査記録

①二本松市地域文化伝承館



- 伝統人形芝居公演の前に、1時間のワークショップを実施。公演の中で発表を行った。参加人数は少なかったが二本松のスタッフの方も一緒に参加してくださり楽しく和やかな雰囲気で行うことができました。

➤ 地元の方が舞台に立つことで観客の方にも親近感を持っていただき、公演をより楽しんでもらったのではないかと思います。公演だけではなく体験もできる今回のような機会があると、地元の方と交流ができ、訪問する側の劇団にとっても嬉しい時間である。

②川俣町立川俣小学校



- 1年生から6年生までの全校生徒を対象にワークショップを実施した。人形解説や義太夫の解説などもまじえながら、子どもたちに実際に人形を動かしてもらった。
- 友達が遣う人形の動きに観ている子どもたちも大笑いしながら声援を送った。このような体験の機会を通じて日本の伝統芸能を身近に感じてもらい楽しさを伝えていければ良いと思う。

人形浄瑠璃体験ワークショップ『ふれアート』inふくしま

①3/2（金）＜6回目＞・3（土）＜7回目/発表会＞



- 2日は発表会に向けての最終稽古日。残念ながら一生懸命練習に参加してきた子が都合により発表会に出演できなくなってしまったが、他のメンバーがサポートして最後の練習に取り組んだ。
- 発表会終了後、みんなまた来年も続けたいと言ってくれた。日本の伝統芸能の魅力にふれ、ここで出会った仲間たちと共に大勢のお客様の前で発表できたことは、子どもたちの自信や、やりがいにつながった。今後も子どもたちに豊かな体験の機会を提供していきたいと思う。

復活！高倉人形プロジェクト・人形浄瑠璃ワークショップ

①3/3（土）＜6回目＞・4（日）＜7回目/発表会＞



- 発表会直前の最後の稽古。“高倉人形の復活”という取り組みは注目度が高く、テレビ局、新聞等の取材が入った。子どもたちはテレビの取材に若干緊張しながらも、いつも通り楽しく賑やかに稽古を行った。大人

の講習生たちは発表が近くなってからは自主練習を行うなど熱心に取り組んできたらしく、今回のワークショップでは大きな成長が見られた。

➤人形や道具もなく、地元の指導者もいないというゼロからのスタートで、これから継続した活動を続けていくには、多くの課題や問題が生まれてくると思う。しかし、この活動を通じて地域を盛り上げていこうという前向きな取り組みには、大変共感ができ我々にとっても刺激となる。また、このプロジェクトは子どもからお年寄りまで多世代交流ができるという素晴らしい活動でもあり、今後もできる限りのサポートを続けていければと思う。



2011年に起こった東日本大震災後より継続して実施してきた被災地への文化的支援活動も7年目となった。震災直後は被災地での支援活動を行う団体も多くいたが、当然のことながら年々数は減少し、震災から5年を境に、被災地はすでに復興したという考えから公の補助金の打ち切りなども相次いだ。しかし、特に放射能の問題を抱えた福島県においては、完全な復興は絶望的ともいえる状況の中、先の見えない不安を抱えながら生活をしている方も多いのが現状である。

今年度は、浪江町の避難者が暮らす復興住宅で上演をさせていただく機会があった。復興住宅とは、自宅を失った被災者が仮設住宅から移り住む恒久的な住まいのことである。今回お伺いした復興住宅が完成したのが昨年。震災から5年以上が経過してもなお仮設住宅などで暮らしている方たちが大勢いることを改めて認識するきっかけとなった。福島第一原子力発電所から浪江町までの距離は最も近いところで約4kmで、継続した避難指示がでている地域もある。震災の影響でいまだに心穏やかに安定した生活ができない人々が大勢いる現実が震災から7年経過した今である。被災地の現状をしっかりと見つめ、過去を振り返り考えることで、未来に向けての教訓とすることが重要であると感じた。

ここ数年は、被災地の方との協力体制も構築されてきており、一方的な支援活動ではなく地元の方たちを巻き込み一緒に事業を行うことができている。被災地の方から新たな提案がでるなど前向きな意見も目立つようになっており、この活動が心の復興や地域の活性化にもつながっていると感じている。

福島の子もたちが笑顔で、そして明るい未来を描けることを心より願い、今自分たちにできることは何なのか今後の支援活動の形を模索していこうと思う。

《以下、備忘録として／2011年やまびこ座・こぐま座の支援活動のスタートを記録したブログより転記》

2011-06-20

がんばれ東北！

あしり座矢吹、6/17(金)より福島県に行っています。本日は福島市から飯館村を通り、津波の被害が大きかった南相馬市へ。福島滞在中に、保育所など計3ヶ所で人形劇を上演してきます。三人遣いではありませんが『おさる』の三番叟で、明るく！楽しく！

天下太平、国土安穩をお祈り。東北の復興を心より願って。 投稿者 AI 時刻: 21:16



2011-06-28

福島報告・矢吹ノートより



郡山市の保育園の先生より「外遊びの現状」。

0～2歳児:15分(1日)、3～5歳児:30分。

「今までできていたお散歩ができないことに小さい子どもたちも疑問に思い始めている」放射能で外に出れない、遊べない子どもたち／町は、普通に歩いている人もいれば自転車に乗っている人もいる。マスクなしで歩く大人。「結局ここで生活していかなければならない」／無関心にならざるを得ない。孤立、見放されているという失望感。あきらめ／「逃げ出したいが行政に相談する窓口がない」／「子どもたちの"年間被ばく量"を減らしたい」1ヶ月でも違ったところに保養に行くだけでも違う。サマーキャンプや疎開など。保護者はそのような事業を必死で探している状況。需要はかなり多い／「できることなら、みんな福島から出ていきたいと思っている」／「爆発後の2・3日、子どもたちが外での水汲みなどを手伝ってくれた。今考えればなんてひどいことをさせてしまったのか…悔やまれる」／「これは戦争です。ただ普通の戦争は敵が見えるが、今回は敵が見えずどうしたらいいか」／「福島を忘れないでほしい」／「声を伝えて欲しい」



【※6/17～22 福島県(福島市、郡山市、二本松市、南相馬市)に行っていた矢吹のメモノートより福島県の方達の言葉】



ここに書いたのはほんの一部ですが、たくさんの方たちの切実な声がかかれていました。大変な災害を受け、「衣食住」の最低限の生活もままならない被災者の方たちがいまだ多くいる中で、『芸能』の必要性の是非が問われています。「まだ早い」「もっと先にやるべき重要なことがある」etc…それも真実。札幌でも文化施設やアーティストの方たちが集まり、被災者支援に何ができるのかを考える講演会が開かれるなど、自分たちにできることを模索している人がたくさんいます。「被災地」と一言でいっても、地域によって被害の大きさや置かれている状況は違い、必要とされる支援の形も様々なのではないかと思います。矢吹のメモを見ていると、津波の被害こそなかったけれど、「見えない敵」と戦っている福島市や郡山市では、子どもたちが外で遊ぶことができず部屋の中で過ごすしかない状況があり、文化的な支援が必要な場所の一つであるように感じました。芸能には、人を楽しませる、喜ばせる、もてなす、癒しの力がある。



幼稚園での人形劇上演後、矢吹が先生にかけられた言葉。「ひさびさに大笑いしました。本当に楽しかった。笑い声が溢れていることの大切さをあらためて実感しました。」

求めている人がいます。何かできることがあります。

投稿者 AI 時刻: 01:04